

議会事務局 処理欄	受付	令和7年11月18日	質問（受付）順位	4番
		11時00分		

令和7年11月18日

阿久比町議会

議長 竹内 卓美 殿

阿久比町議会議員

新美 加寿奈

議席番号 3番

一般質問の通告について

令和7年第4回定例町議会において次のように質問したいから通告します。

番号	質問事項	質問の要旨（具体的にご記入願います）	備考
1	5歳児健診を生かす切れ目ない支援	<p>「小学校入学が不安」「地域の学校と特別支援学校、どちらが適しているのかわからない」「我が子に障がいがあるということを受け入れられない」——これは、本町で子育てをしている保護者から実際に寄せられた声です。</p> <p>就学前に、子どもの発達や特性に不安を抱える家庭は少なくありません。また、不安が大きすぎるゆえに、発達相談に自ら足を運ぶことが難しい家庭もあり、その場合、子どもは支援を受ける機会を逃すこととなります。保護者、子ども双方を早期に支援へつなげるのに「5歳児の健康診査（以下、5歳児健診という）」は有効な施策といえます。</p> <p>こども家庭庁は、出産後から就学前までの切れ目のない健診の実施体制を整備するため、1か月児健診とあわせて5歳児健診の全国的な実施を目指しています。また、日本小児科学会による5歳児健診ポータルサイトによると「5歳児は、言語の理解能力や社会性が高まり、発達障害が認知される時期」とされています。就学時健康診断以前のこの時期に、子どもの特性を把握し、支援につなげることができれば、就学に向けた支援体制の構築にも大きく寄与するものと考えます。</p> <p>一方で、実際に5歳児健診を実施する場合には、関係機関との連携、支援の継続性など、さまざまな課題が想定されます。特に、健診の実施のみでは保護者がかえって子育てに不安を</p>	

番号	質問事項	質問の要旨（具体的にご記入願います）	備考
		<p>抱く場合もあり、その後のフォローアップ体制の充実こそが重要です。</p> <p>国は、2028年度までに5歳児健診の実施率100%を目指しており、本町においても、10月末に行われた自治体キャラバンとの懇談の際「5歳児健診を実施（予定）している」とするアンケート項目に丸印があり、開始予定年月は「令和8年4月」と記載されていました。5歳児健診の予定、実施目的、さらに幼児期から学童期への切れ目ない支援体制の構築に重点を置き、以下の点について伺います。</p> <p>(1) 5歳児健診実施の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 本町で現在実施している乳幼児健診の時期と種類。 ② 5歳児健診を行なうことのメリット。 ③ 令和8年度から10年度に対象となる子どもの数。 <p>(2) 5歳児健診実施の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 園医方式、巡回方式、二段階方式等の実施方法。 ② 発達に関する診断に習熟した医師または専門職による十分な診察体制の確保。 <p>(3) 5歳児健診後の支援体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 5歳児健診で判定を受けた子どもの状況やニーズに継続的に対応できる十分な数の事業所や専門家、職員の確保。 ② 健診により、子どもの特性を早期に発見することが可能となった結果、特別支援学級（以下、支援級という）に入級する児童は増えると予測されるか。 ③ 健診で要フォローとされた家庭と学校とで面談を行うなど、入学後の支援方法や進路等について話し合う機会は。 ④ 多様化する児童の特性にどのように対応していくか、その体制および職員数は十分といえるか。 ⑤ 現在の学校支援員の配置人数および人件費と、一名増員するのに必要となる経費。 ⑥ 支援級の体制が不十分な場合、特別支援学校への優先的な斡旋など、児童が教育を受ける権利を保障するための方策。 ⑦ 障がいのある児童について、学校全体で特性を把握し情報を共有しているか。 <p>(4) 令和8年度からの5歳児健診実施について、本町の見解。</p>	